

1. 目標管理型の政策評価に係る課題

- (1) 目標設定の在り方
 - ・ 企画立案と評価のかい離（評価のための目標（測定指標）設定になっている）
 - ・ 目標（測定指標）について、「いつまでに、何について、どのようなことを実現するのか」が必ずしも明らかにされていない
- (2) 施策の分析手法
 - ・ 未達成の原因分析や達成手段の目標への寄与等の分析が十分に行われていない
- (3) ロジック・モデル
 - ・ 事前分析表で、目的－目標－達成手段等が整理されたが、必ずしも目標設定や施策の分析に生かされていない
- (4) 目標管理型の政策評価に馴染まない施策に係る評価手法
 - ・ 各府省の「主要な施策」の評価に、目標管理型の政策評価が一律に活用されているものの、当該評価方式に必ずしも馴染まない施策がある可能性
- (5) 政策評価と行政事業レビューとの連携の在り方
 - ・ 政策評価と行政事業レビューとの連携が必ずしも行われていない
- (6) その他在り方
 - ・ 「ガイドライン」は整備されたものの、目標設定方法や施策の分析手法等についてのマニュアルが整備されていない
 - ・ 重点化・効率化による評価のメリハリが必要



【目標管理型評価ワーキング・グループにおける検討事項】

- (1) 目標設定の在り方
 - (2) 施策の分析手法
 - (3) ロジック・モデル
 - (4) 目標管理型の政策評価に馴染まない施策に係る評価手法
 - (5) 政策評価と行政事業レビューとの連携の在り方 など
- ※ 重点化・効率化による評価のメリハリに留意

2. 目標管理型評価ワーキング・グループ第1回・第2回における主な意見①

<第1回> 6 / 9 (火) 開催、<第2回> 7 / 7 (火) 開催

【検討の目的】

- ・ 政策評価を政策の見直し・改善に資するものにする

【検討の基本的な立場】

- ・ 新たに負担を増やさない。評価対象の選択・省力化が必要
- ・ 事務局資料の検討の視点にとらわれず、様々な観点から検討を行いたい

【政策評価の類型化】

- ・ 評価の目的として、①効果的・効率的な行政と②国民への説明責任の両方が満たされていることが望ましいが、政策等によってはいずれかに重点が置かれる場合も考えられる

【目標管理型の政策評価】

[目標設定]

- ・ 目標管理型の政策評価の意義等、大きな視点から整理が必要
- ・ 各府省のミッションとされた範囲での目標設定が必要。問題は、①施策のくくりが大きすぎることと、②測定指標の設定
- ・ これをやったらこうなるというロジックが必要
- ・ 無理に定量化するより定性的な目標が良いが、定性的な目標は検証可能であることが必要

2. 目標管理型評価ワーキング・グループ第1回・第2回における主な意見②

[政治的決定と評価]

- ・ 施策単位の大きさによって、目標管理型に馴染むかどうかが変わる。範囲の狭い施策は目標管理型に馴染む
- ・ 政権の重要施策の方針を決める内閣官房が評価主体となっていない。政治的要素が強い施策の扱いは議論が必要

[静的な目標と動的な手段]

- ・ 目標がはっきり決まっていて、手段を動的に選択する施策が目標管理型に馴染む
- ・ 目標管理型はスタックな目標かつ評価のスパンがある程度必要で、予算のダイナミズムに対応できない

[ロジックの整理]

- ・ ロジックをはっきりさせて有効性をしっかり分析すれば、より良い他の手段も見えてくる

[その他]

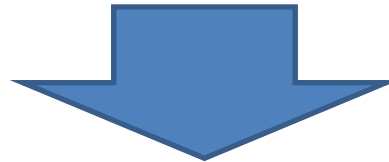
- ・ 政策評価は、政策の見直し・改善のための手段であり、各府省の通信簿というイメージを払拭したい

【出口のイメージ】

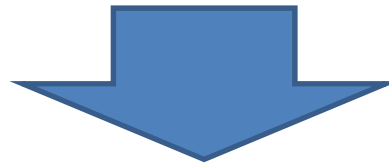
- ・ WGの今後の議論次第で出口は変わりうることに留意する必要がある
- ・ 目標管理型に馴染むが必要性が低いものと、そもそも目標管理型に馴染まないものとの違いについて、①目標設定の困難性、②成果掘り下げ、③定量化、④評価期間等の観点から考えたい
など

3. 今後の検討予定

- 事前分析表等の実例を見ながら、目標設定等について検討



- 各府省の実情も踏まえ、具体的な目標管理型の政策評価の改善方策を取りまとめ



- 政策評価制度部会として取りまとめ、政策評価審議会に報告の上、各府省に提供

目標管理型評価ワーキング・グループにおける検討について

平成 27 年 10 月 6 日

谷 藤 悦 史

1. 目標管理型政策評価の現状把握と課題の抽出

- (1) WG による目標管理型政策評価の課題抽出・見直し
 - ①目標設定の在り方の検討
 - ②施策の分析手法の検討
 - ③ロジックモデルの構築の在り方と妥当性の検討
- (2) 各府省ヒアリング（実態の把握、フィージビリティの確認）

2. WG が最終的に目指すもの〔制度の実質化と洗練化〕

(1) 成果につながる評価

〔岡委員：政策の改善につながる評価、藤井・松浦委員：効率的・効果的行政の実現、薄井臨時委員：ポジティブに仕事ができる知恵の集積〕

(2) 評価のレベルアップ

〔白石・森田臨時委員：エビデンスに基づく評価〕

(3) 評価の仕分け

- ・目標管理型評価等の対象について選択と集中による仕分け

〔田中委員：評価疲れ、薄井臨時委員：「P」「D」を大きく、「C」「A」を小さく〕

(4) 政策評価の実質化と洗練化

- ・世界的な理論動向と政策評価制度の成熟を踏まえた新評価手法の検討
 - 具体的なモデル・改善方策の提供
 - ベストプラクティスの抽出と普及
- ・政策評価の効率化（簡潔で透明性のある評価、評価疲れからの脱皮）
- ・政策評価の高度利用（政策の改廃と効率的達成に寄与する評価）
 - 目的としての政策評価から手段としての政策評価
 - 学習モデルの徹底化と浸透
- ・政策評価と事業評価の棲み分けと連携

3. アウトプットの方向性（案）

(1) 目標設定の在り方について

- ・アウトプット目標とアウトカム目標の定量的方策の提示

- ・ 定性的目標設定の方策と領域についての基本的指針の提示
- ・ 目標測定についての基本的指針の提示
(例：アウトカム目標は3～5年に1回、アウトプット目標は毎年度測定など)

(2) 政策評価の分析手法について

- ・ 評価指標の設定と洗練化
 - ― 評価指標数の適切性の検証と指針の提示
 - ― 評価指標そのものの妥当性検証と指針の提示
- ・ 設定目標に接近しているか否かの判定基準の検証と指針提示
- ・ 原因分析手法の提示
 - ― 内部要因分析と外部要因分析の相互利用
- ・ 評価指標ならびに目標の再設定方策についての指針の提示

(3) ロジックモデルの構築について

- ・ 政策評価と事業評価を包括するロジックモデルの開発と相互利用
- ・ ロジックモデルの構築と見せ方の提示
- ・ 評価シートの洗練化
 - ― 簡潔で透明性のある評価シートの形成
 - ― ロジックが理解可能な評価シートの形成

(4) 政策評価ガイドラインの洗練化に向けた改革提案の提示